

2026 ミス日本「海の日」 野口絵子さん  
海への思いがつかないだミス日本『海の日』

プロフィール 野口絵子 (のぐち えこ)

東京都出身、大学3年生。趣味は旅やストレッチ。特技は写真撮影と登山。

父・野口健(アルピニスト)の影響で世界の山々に登る。遠くからはきれいに見える山や海も、近くで見るとゴミがあることを知り、海岸清掃活動にも携わる。

自然をきれいに保ち、未来に残したいと思い、ミス日本「海の日」として、皆がもっと海について考えてくれる社会になるような活動をしていきたい。

「山登りをしている人が、どうして海なの?」受賞後、たくさんの方にそう聞かれました。

幼い頃から父が連れて行ってくれる場所はいつも山でした。けれど、海への憧れも小さな胸に秘めていました。

そんな私が海の世界を知るようになったのは高校時代のニュージーランド留学でした。日本と同じ島国であるニュージーランドの人々にとって海は生活の一部で、多くの方がボートを持ち、休みになれば気軽に釣りへ出かけます。

夏になると、ホストファザーが仕事から帰ってきたあとに、ほんの30分だけでも海へ向かいます。友人同士でどこかへ行こうとなっても、自然と行き先は海。何度も海で夕焼けを眺めた高校生活でした。

「100年後も、この豊かな魚を食べ続けたい」という切実な思いを抱くようになり、私は、日本の水産資源を守るために活動している一般社団法人「Chefs for the Blue」が主催する、学生向けプログラム『THE BLUE CAMP』に参加し、水産業の現場、流通の裏側、そして消費の構造を横断的に学びました。

華やかなミス日本の授賞式のステージでは、「海」とつながった!という喜びでいっぱいでしたが、今は、「海運」についても学んでいます。

周囲を海に囲まれた日本の貿易量は、なんと99.5%が海運によって支えられています。(トン数ベース)食品、衣料品、家電、そして医療機器。私たちの暮らしに欠かせないあらゆるものが世界中から運ばれてきます。港で働く方々、そして何カ月も海の上で過ごす船員の皆さまの献身的な働きがあってこそ、私たちの豊かな暮らしは成り立っているのだと、改めて気づかされました。

山で育った私が、今、海の魅力に突き動かされています。ミス日本としての任期中はもちろんのこと、これからもずっと海と共に歩んでいきたいと思います。

「海員だより」